

学生注目!!!

なんだー!

よりよい人間関係を築くために

性的同意を

知ってほしい!



性的同意ってなに?

性的同意とはすべての性的な言動において取られるべき同意のこと。身体的な接触&性に関する話題を話す時も性的同意は必要。

同意のない性的言動は性暴力です。

こんな時には同意を取ろう!

身体的な接触

- ・キスをする時
 - ・性行為をする時
 - ・ハグをする時
 - ・手をにぎる時
 - ・肩を組む時
- 例) 紺碧の空を歌う

- ・パートナーの有無を聞く時
例) 彼氏 / 彼女いるの?
- ・性体験を聞く時
例) 初体験いつ?
- ・性自認 / 性的指向などを聞く時

※話したくない人もいます。不必要に聞かないようにしましょう

性に関する話題
(寝ハナ・下ネタ) を話す

性的同意6つの原則

性的同意はこの6つの原則がすべて守られているときに成立します。

1 対等な関係であること

目上の人（先輩、教師、コーチ、上司など）の誘いを断ることで、起こり得る悪影響を恐れ、NOと言えない・YESと言わざるを得ない時があります。
教師、コーチ、上司からの一方的な同意は成立しません！先輩・後輩の関係などの場合でも、そのことによってどちらか一方がNOと言いつらくなっているか、互いに常に気にかける必要があります。

2 意識がはっきりしていること

同意を取るには意識がはっきりしていることが大前提。正常な判断ができない状況（薬物やアルコールを摂取している時、疾病や障害などで意識が混濁している時など）では同意は成立しません。

3 強制がないこと

同意とは、本人の意思で選ぶこと。プレッシャーや脅しなどの強迫行為で、相手にYESと言わせるのは同意ではありません！

4 十分な情報が与えられていること

同意を取るためには、性的行為の情報を相手の理解力に応じて十分に与える必要があります。「同意した内容と違う！」「それには同意していない！」というのは情報が与えられていなかったということ！

5 行動をおこす側が積極的なYesを聞く責任があること

本人の積極的なYESの同意がなければアウト！
「うーん…」などの曖昧な言動はYESじゃないですよ！

6 一回一回確認すること

一回のYES≠全てにYES/ずっとYES
①家に行くのはYES。でも、スキンシップやキス、性行為へもYESとは言っていない！
②さっきYESと言ったけれど、途中で気持ちが変わることもある！
③今日YESと言ったからといって、明日もYESではない！

みんなで被害を止める 早稲田をつくる

Direct
直接止める

もっともシンプルな介入方法が「Direct(直接止める)」です。言葉による性暴力に対しハッキリ否定をし、実際の動きを伴う性暴力には加害者を止めましょう。相手が攻撃的な場合などには注意が必要です。複数人で直接止めるアクションができると良いです。その場の空気を読んで笑って受け流す必要はありません！

周りの責任者に対応してもらう方法が「Delegate(責任者に任せる)」です。自分の安全が守られない恐れがある場合や自分だけで対処できない場合は、駅員・警察・店員など加害者に直接注意できる人に対応を任せましょう。自分が責任者の場合はできる限り対処を試みましょう！

Delegate
責任者に任せる

Delay
後から対応する

その場では介入するのが難しい場合は、「Delay(後から対応する)」を使いましょう。この場合、被害者をさらに傷つけないように対応することがとても重要です。まずは被害者の思いに寄り添い、否定せず受け入れましょう。性被害の責任は加害者にあります。被害者に責任はありません。

Distract
注意をそらす

直接的な介入が難しければ「Distract(注意をそらす)」が効果的です。加害者の注意をそらしたり、加害者と被害者を遠ざけることで一時的に被害を止めることができます。といっても、話題を変えたり場の雰囲気を変えたりすることは1人では難しいですよ。しかし、みんなでやれば間違いを間違いだと認識させることができるかもしれません。より多くの人がアクションを起こすことが必要なのです！

Document
記録する

しかるべき機関に対処させるときに「Document(通報する/記録する)」は重要です。記録があると機関が動きやすくなります。自分の安全を確保し行いましょう。記録を使用するときは被害者の許可を！被害者の同意なくSNSにあげるなどは絶対にしてはいけません！



学生注目!!!

なんだー! 

よりよい人間関係を築くために

性的同意を 知ってほしい!

思い
ある



いいよ
好的

性的同意ってなに?

性的同意とはすべての性的な言動において取られるべき同意のこと。身体的な接触&性に関する話題を話す時も性的同意は必要。

**同意のない性的言動は
性暴力です。**

こんな時には同意を取ろう!

身体的な接触

- ・キスをする時
 - ・性行為をする時
 - ・ハグをする時
 - ・手をにぎる時
 - ・肩を組む時
- 例) 紺碧の空を歌う

- ・パートナーの有無を聞く時
例) 彼氏 / 彼女いるの?
- ・性体験を聞く時
例) 初体験いつ?
- ・性自認 / 性的指向などを聞く時

※話したくない人もいます。
不必要に聞かないようにしましょう

性に関する話題
(癒ハナ・下ネタ) を話す

性的同意6つの原則

性的同意はこの6つの原則がすべて守られているときに成立します。

1 対等な関係であること

目上の人（先輩、教師、コーチ、上司など）の誘いを断ることで、起こり得る悪影響を恐れ、NOと言えない・YESと言わざるを得ない時があります。

教師、コーチ、上司からの一方的な同意は成立しません！先輩・後輩の関係などの場合でも、そのことによってどちらか一方がNOと言いつらくなっているか、互いに常に気にかける必要があります。

2 意識がはっきりしていること

同意を取るには意識がはっきりしていることが大前提。正常な判断ができない状況（薬物やアルコールを摂取している時、疾病や障害などで意識が混濁している時など）では同意は成立しません。

3 強制がないこと

同意とは、本人の意思で選ぶこと。プレッシャーや脅しなどの強迫行為で、相手にYESと言わせるのは同意ではないですよ！

4 十分な情報が与えられていること

同意を取るためには、性的行為の情報を相手の理解力に応じて十分に与える必要があります。「同意した内容と違う！」「それには同意していない！」というのは情報が与えられていなかったということ！

5 行動をおこす側が積極的なYesを聞く責任があること

本人の積極的なYESの同意がなければアウト！
「うーん…」などの曖昧な言動はYESじゃないですよ！

6 一回一回確認すること

一回のYES≠全てにYES/ずっとYES

- ①家に行くのはYES。でも、スキンシップやキス、性行為へもYESとは言っていない！
- ②さっきYESと言ったけれど、途中で気持ちが変わることもある！
- ③今日YESと言ったからといって、明日もYESではない！

みんなで被害を止める 早稲田をつくる

Direct
直接止める

もっともシンプルな介入方法が「Direct(直接止める)」です。言葉による性暴力に対しハッキリ否定をし、実際の動きを伴う性暴力には加害者を止めましょう。相手が攻撃的な場合などには注意が必要です。複数人で直接止めるアクションができると良いです。その場の空気を読んで笑って受け流す必要はありません！

周りの責任者に対応してもらう方法が「Delegate(責任者に任せる)」です。自分の安全が守られない恐れがある場合や自分だけで対処できない場合は、駅員・警察・店員など加害者に直接注意できる人に対応を任せましょう。自分が責任者の場合はできる限り対処を試みましょう！

Delegate
責任者に任せる

Delay
後から対応する

その場では介入するのが難しい場合は、「Delay(後から対応する)」を使いましょう。この場合、被害者をさらに傷つけないように対応することがとても重要です。まずは被害者の思いに寄り添い、否定せず受け入れましょう。性被害の責任は加害者にあります。被害者に責任はありません。

直接的な介入が難しければ「Distract(注意をそらす)」が効果的です。加害者の注意をそらしたり、加害者と被害者を遠ざけることで一時的に被害を止めることができます。といっても、話題を変えたり場の雰囲気壊したりすることは1人では難しいですよ。しかし、みんなでやれば間違いを間違いだと認識させることができるかもしれません。より多くの人がアクションを起こすことが必要なのです！

Distract
注意をそらす

Document
記録する

しかるべき機関に対処させるときに「Document(通報する/記録する)」は重要です。記録があると機関が動きやすくなります。自分の安全を確保し行いましょう。記録を使用するときは被害者の許可を！被害者の同意なくSNSにあげるなどは絶対にしてはいけません！